

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000192		
法人名	特定非営利活動法人 エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム あぐら		
所在地	京都府長岡京市東和苑1番地の4		
自己評価作成日	平成30年6月16日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を大事にし、職員と利用者が家族のような関係を構築できるようにしている。 ・低所得者及び生活保護受給世帯でも利用可能な料金設定を維持し、開設当初より変更していない。 ・利用申し込み順ではなく、その方の利用に際しての理由、緊急性その他諸事情を勘案して対応している。 ・個別ニーズに応じ、細かな外出支援を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは理念に謳われた「あなたらしさ」を大切にホームでの暮らしがその人らしいものとなるよう取り組んでいます。日々の中で利用者の思いを引き出し、自宅へ付き添い位牌に手を合わせる方や元気な頃に通っていた競馬場などへ付き添うなど個々の思いを大切に個別支援に取り組んでいます。気候の良い時期は散歩や菜園での水やりや収穫を行い日常的に外気に触れ、また週に2回は利用者と共に食材の買い物に行く他、桜や梅などの花見に加え嵐山や北野天満宮などの名所旧跡へドライブを兼ねて出かけるなど多くの外出の機会を作り利用者を楽しんでもらっています。また長年勤務する職員が多く、職員の個別の状況に合わせた勤務日数やシフトの配慮などを行い働きやすい職場環境を整える中で離職も少なく利用者との馴染みの関係を築いています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員会議等で折に触れ共有するようにしている。また、新しいスタッフには口頭で少しずつ周知するようにしている。	『「平安」と「安らぎ」そして「あなたらしさ」と共に』と掲げられた独自のキャッチフレーズを大切に継続しています。長く勤務する職員が多く、キャッチフレーズは浸透しており、パンフレットにも載せています。その人らしさを大切に言葉遣いや対応を心がけ、個々の希望や楽しみ事を個別ケアに取り入れながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・現在地域とのつながりはまだ低いですが、散歩やイベントなどを通じて少しずつ周知されつつある。	散歩や買い物の際に出会った方と挨拶を交わしたり、喫茶店やパン屋などの地域の店舗を利用者と一緒に利用しています。自治会に加入し回覧板や運営推進会議などから情報を得て地蔵盆に出かけたり、マジックや尺八などのボランティアの来訪があります。また運営推進会議の中で介護相談を受けることを伝えると共に地域交流について相談をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議等を通じて発信するようにしているが、まだ取り組み度合いは低い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議に参加された方には担当者より細かい説明をし、そうでない方々には結果を郵送し質疑応答を受けるようにしている。	会議は地域の自治会館で家族や自治会長、民生委員、市職員や地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。利用者や職員の状況、行事報告などを行い意見交換をしています。市職員から役所の仕組みの変更や介護保険改訂についての説明を受けたり、ホームから災害時の対応について伝える他、地域の高齢者問題や防犯について話し合うなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村の担当と顔を合わせることはよくあり、責任者は月に数回は市役所へ赴いている。	運営推進会議に市職員の参加を得ると共に代表者は役所に出向くことも多く、担当者や挨拶や会話をしています。また身体拘束について相談をしたり、市からは様々な案内や依頼、入居等の相談を受けることもあり、互いに協力しながら関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・スタッフに対しては周知しつつあるが、現在支援が困難な方に対し、一部拘束している。状況や改善方針については運営推進会議などで周知しつつある。	日常的には利用者の行動を止めない支援に努めており、1、2階への移動をしたり利用者によっては施錠されていない玄関から散歩に出る方など自由な暮らしへの支援をしています。現在危険防止のため家族の了解の下、夜間のみベッド柵を使用している方がおり、職員会議で必要性を検討し記録に残し、市職員の参加がある運営推進会議でも具体的に相談をしています。	

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・スタッフには口頭ではあるが周知を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・まだ取り組み方は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・締結時には原則本人とご家族を同伴の上署名捺印をお願いしている。改定時には文書により説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・そのように対応しているが、反応は鈍い。	日々の暮らしの中で利用者の希望を聞きながら好みのものを食べに行ったり、景色の良い場所や競馬場など個々の楽しみを大切に個別支援に繋がっています。また家族の意見や要望は面会時に利用者の様子を伝える中で意見や要望がないかを聞き、希望に添って介護計画に取り入れるなど個々に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議等により機会を設けている	職員の意見や提案は全職員参加の下、1～2ヶ月に1度開催する職員会議や日々の申し送り時、業務の中などで聞いています。職員は支援の方法や業務改善、物品購入など積極的に意見や提案を出しており、話し合いケアの統一に繋がったり、クロス張替えや空気清浄機の購入などを実現しています。また代表者は日々の中で随時職員の話の聞き相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・そのように対応している。そのためか離職率は低い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・そのように対応しているが、今年度の成果は低かった。		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・取り組み方はまだ低い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前に本人の包括的な情報収集をし、円滑に利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者を決め、窓口を一本化することによりスムーズにやり取りできるようにしている。また、職員から個別にヒアリングを随時行い、情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存能力や志向を事前に調査し、その能力に応じた家事等をしていただけるようにしている。現在全体的な介護度が上がり、概ね1/3程度の利用者に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・働きかけてはいるが、家族によりばらつきが有り概ね反応は低い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・前に利用していた事業所に訪問することもあり、一定取り組みはできている。また、昔の職場友達が電話をしたり訪ねてきたりすることもある。	利用者の希望を聞きながら自宅に付き添い位牌に手を合わす方や通っていたスーパーや競馬場に付き添うなど個々の思いを引き出しながら馴染みの支援に繋げています。また親戚や友人、元同僚や職場の上司だった方などの来訪もあり居室でお茶などを出しゆっくり過ごせるよう配慮をしています。家族の協力を得て自宅から近所のスーパーに買い物に行く方の身支度などを支援したり、元先輩などからの電話もあり取り次いでいます。	

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・そのように対応しているが、認知症度合いや住変状況にばらつきがあり、思うような成果は上がっていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後もフォローアップを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・契約書にその旨明記し、実践している。	入居時は雰囲気を見てもらうためにも利用者や家族にホームへ来てもらいその際に生活歴や希望などを聞いたり、元のケアマネジャーなどからも情報をもらい職員間で共有しています。日々関わる中で利用者の様子や思いなどは個人記録に記入し、思いの把握が困難な場合は会話の中から言葉を拾ったり、職員間で気づいた事を出し合い会議などで思いの把握に向けて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・そのように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議等を通じて実施している。随時新しい取り組みを介護支援専門員にすぐに提案出来る環境にある。	日々の中で聞いた利用者の希望や家族の意向を取り入れ介護計画を作成しています。毎月ケアマネジャーが職員の意見を加味しモニタリングを行い利用者ごとに6か月から1年の期間を設け介護計画を見直しています。見直し時にはケアチェック表を用いて利用者の状況を把握し、必要に応じて来訪時に聞いた医師や訪問看護師の意見を介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース会議等を通じて実施している。		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ニーズの把握、実践に努めているが、成果のほどは不明である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議等を通じて、地域資源の把握に努め、極近隣のパン屋さんと一緒に買い物に行ったり、喫茶に入ったりすることが増えつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅時のかかりつけ医にそのまま往診、通院等の依頼をしている。	ホームでは全利用者が在宅時のかかりつけ医を継続し、其々月に1~2回の往診を受けたり、職員と共に受診をしています。其々のかかりつけ医はほぼ24時間連絡を取ることができ、体調の変化時は連絡を取り指示を受け対応したり救急搬送をしています。また専門医への受診についても職員が同行しています。必要や希望に応じて訪問歯科を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションと契約を行い、協働での作業は増えつつある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・窓口を一本化することにより円滑な対応を行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように対応している。地域の関係者との協議はまだ行っていない。	入居時にホームでは終末期の支援は行っていないことを説明しています。利用者が重度化した場合は家族や医師、訪問看護師を交えて話し合う機会を持ち、利用者の状態に合わせて病院や他の施設などを紹介していますが出来る限り長くホームで過ごせるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・まだ取り組み方は低い。		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・現在運営推進会議で議論中であり、マニュアルを見直しつつある。	年に2回夜間を想定した自主訓練を行い通報や初期消火などを実施しています。先般の水害発生時には消防署や市役所に連絡を取り連携を図りながら2階に避難するなどの対応をしています。また運営推進会議で相談しながら災害マニュアルを見直しています。近隣のトランクルームの2階に食料などの備蓄品を移し水害等に備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように対応している。	職員間で言葉遣いや対応について意見が上がる事もあり、随時職員間で話し合っています。一人ひとりに合わせた言葉遣いや対応を心がけ、新人職員には丁寧な言葉掛けをするよう伝えています。同性や希望に添って下の名前で声をかける事もありますが、苗字での声掛けを基本にしています。また希望に添って同性介助に努めると共に不適切な対応が見られた場合は職員間で注意を合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・好みや嗜好に対し、随時意向を聞くようにしている。食事のシーンや外出時に顕著である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声掛けはしてるが、本人の好みのリズムを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の好みに任せており、意思表示ができない人は、各衣類がローテーションで組み合わせるように工夫している。。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物や茶碗ふき、洗濯物畳みなど参加できる家事には参加していただいている。	献立は利用者の好みに配慮し旬の物や行事食等も加味して立て、週に2～3回利用者と買い物に行き食材選び等を一緒にしています。利用者は野菜の下処理や下膳、茶碗拭き等のできることに携わっています。祇園祭の日は鰻寿司を取ったり、少人数で喫茶店等へケーキやお茶を楽しみに行っています。また冬は暖炉で焼き芋をしたりゼリー等の手作りおやつを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量に留意が必要な人については把握、量の増減を試みている。		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・2回/日の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・おむつは一切使わず、すべて声掛け、誘導で対応している。夜間は必要に応じてパット交換のみの場合もある。	重度の方を含めておむつを使用している方はおらず、記録を基に個々の排泄リズムを把握し、体調にも配慮をしながら全員がトイレで排泄ができるよう支援をしています。おむつを使用して退院となった場合も速やかに入院前の状態に戻れるよう支援をしています。また紙パンツなどの排泄用品については個々に合った物を随時話し合い、家族の負担も考慮し決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の高い食事内容を考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・連日はいる方もおり、数日空く方もいるが、おむね3日に1回は入れるようにしている。	入浴は3日に1度は入れるよう主に午前中に支援し、希望に応じて午後から入る方もおり、時間外の希望が出された場合はできるだけ意向に添えるよう検討したいと考えています。柚子や菖蒲などの季節湯を取り入れ、音楽を掛けたり会話を楽しみゆっくり入れるよう支援をしています。また入浴を断る方には職員の交代や時間を変えて声をかけるなど工夫しながら入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・睡眠サイクルの把握に努め、そのように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内容につき担当者が把握するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・そのように対応している。一日のうち一定のレクリエーション時間を設けるなど工夫するようになっている。		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・大規模なレクリエーション外出より、細かなニーズに対応した外出支援を実施している。	桜や梅等の花見の他、気候が良い時は嵐山や北野天満宮、伏見稲荷大社、清明神社等の京都の名所旧跡へのドライブを楽しんでもらっています。また食材の買い物や喫茶店、パン屋に行ったり、玄関先での日光浴や菜園での水やりや収穫などを楽しみ、更に希望を聞きながら個別や少人数で出かけるなど多くの外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人が金銭管理をしている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・随時施設の電話を開放している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	暖炉があり家庭的な温かみのある共用空間はソファや椅子を多く置き、利用者が居心地の良い場所を選び寛げるよう配慮をしています。また花を活けたり、毎月カレンダーを利用者と一緒に作り飾る等利用者の季節感にも配慮をしています。利用者に聞きながら室温を調整し、日々の掃除に加え、一日おきに手摺りや床の消毒、トイレは日に3回掃除をする等清潔な環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用書同士の好悪を把握し、そのように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	入居時に馴染みの物などを持ってきてもらうように伝えています。利用者には筆筒やソファなどの家具や使用していた安楽椅子などの他、大切な仏壇やアルバム、釣り道具やオルゴールなど趣味の物なども自由に持参してもらっています。また自宅と同じように布団を敷いて休む利用者もあり、これまでの生活習慣を継続してもらい安心して過ごせるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのように対応している。		